

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業計画期間	平成 20 年度～平成 24 年度
事業実施地区名 （都道府県名）	肱川森林計画区（ひじかわ） （愛媛県）	事業実施主体	四国森林管理局 愛媛森林管理署
事業の概要・目的	<p>肱川森林計画区は、愛媛県西部に位置し、内陸山間地帯から宇和海にまで面する区域であり、国有林は肱川及び面河川上流部に所在し、5,479haを対象としている。</p> <p>当計画区の立地条件等(奥地林・里山林)は多様であるが、自然環境の維持保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮等に関する地域の要請は高い。</p> <p>本事業は、これらの要請に応えながら、植栽等の更新作業、下刈、除間伐等の保育作業、及び林道の新設・改良等の路網整備を行い、森林の重視すべき機能の区分に応じた適切な森林整備を行うことを目的とする。</p>		
	主な事業内容	森林整備	更新面積 5 9 (ha) 保育面積 5 2 3 (ha)
		路網整備	開設延長 2 . 2 5 (Km)
費用対効果分析	総費用（C）	3 8 0 , 1 0 4 (千円)	
	総便益（B）	水源かん養便益	3 0 3 , 9 8 4 (千円)
		山地保全便益	1 4 6 , 3 3 2 (千円)
		環境保全便益	4 2 , 5 9 3 (千円)
		木材生産便益	1 1 3 , 1 4 7 (千円)
		森林整備経費縮減等便益	4 1 6 , 2 8 9 (千円)
		計	1 , 0 2 2 , 3 4 5 (千円)
	分析結果（B / C）	2 . 6 9	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 森林の有する多面的機能を健全に維持発揮させるため、森林の育成段階に応じた施業を実施して、森林に対する地域の要請に応じられると共に、森林を将来の世代に健全な形で引き継いでいくため、本事業の実施が必要である。 ・ 有効性： 国有林の地域別の森林計画に即した事業内容であり、地域の特性を、踏まえた計画的な森林整備の実施により、森林の有する機能を十分発揮させるために有効な事業と認められる。 ・ 効率性： 費用対効果分析の結果から効率性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の重視すべき機能の区分に応じた適切な森林整備が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

国有林森林整備事業の事前評価の費用対効果集計表

森林管理署	愛媛
森林計画区	肱川
事業名	森林環境保全整備事業

効果測定項目	評価内容	便益額 B (評価額)			備考
		森林整備計	路網整備計	(千円) 計	
水源かん養便益	洪水防止便益	162,141		162,141	
	流域貯水便益	62,201		62,201	
	水質浄化便益	79,642		79,642	
山地保全便益	土砂流出防止便益	146,332		146,332	
	土砂崩壊防止便益			0	
環境保全便益	炭素固定便益	42,593		42,593	
林業生産便益	木材生産等経費縮減便益		5,869	5,869	
	木材利用増進便益		8,708	8,708	
	木材生産便益(森林整備分)	72,748		72,748	
	木材生産便益(路網整備分)		25,822	25,822	
森林整備経費縮減等便益	歩行時間等経費縮減便益		227,124	227,124	
	作業道作設経費縮減便益		155,839	155,839	
	治山経費縮減便益		29,928	29,928	
	森林管理等経費縮減便益		3,398	3,398	
総便益額 (B)		565,657	456,688	1,022,345	
総費用額 (C)		139,605	240,499	380,104	
費用対効果分析 (B) / (C) =				2.69	

注) 1 に適宜入力する。

2 (B) / (C) 1.0 であれば、社会経済的に評価でき、実行可能性のあることを意味する。